

## アートフォーラム

3/23(日) 美術館講堂

開場 1:00 開会 1:30  
資料代 500 円

### 「君の星はかがやいているか」

伊藤 千尋氏（朝日新聞記者）

裏面に内容紹介

「憲法が危うい」と警鐘をならし、「何をしたらいいのか」と問う。表現者としての私たちは、どうとらえたらいいのか。必聴の講演。

## 公開創作研究会

二日間にわたり対象作家の作品について研究討議をします。明日の創作のヒントに。どなたも自由に参加できます。



66 回展公開創作研究会

3/26(水) 2:00- 対象作家 相沢まり子（水彩） 渡邊昭 硯（油彩）

3/27(木) 2:00- 対象作家 大野恵子（油彩） 山下二美子（油彩）

## 各種合評会

集合場所は会場入り口に掲示します

会期中さまざまな合評会が予定されています。ぜひ参加して創作の糧にしましょう。

● 部屋別合評会 3/24(月) 2:00—

出品者の展示室別のグループに分かれて作品合評をします。

● 分野別合評会 3/29(土) 3:00—

日本画、水彩・デッサン、立体彫刻、工芸、版画、きり絵、インスタレーションなど分野毎の合評です。

● 初出品者交流合評会 3/22(土) 10:00—

初出品者の作品のあるグループ毎に分かれて作品の交流・合評をします。お気軽にご参加ください。

● 青年合評会 3/30(日) 3:00—

青年コーナーを中心に合評会をします。

## 被災地の「子どもたちの健康支援」チャリティ

東日本大震災から 3 年が過ぎようとしています。いまだに仮設住宅に 30 万人、県外に 6 万人の人たちが避難生活を強いられています。今も放射線を放出し続ける原発があります。子どもたちの健康被害も深刻です。ぜひチャリティ作品の購入にご協力ください。売り上げは福島の子どもの健康支援団体と被災地保育園の食品放射線測定器購入のための支援となります。

## メッセージカード

会場には、出品者と鑑賞者をつなぐ「メッセージカード」が用意されています。鑑賞者とともに創作の切磋琢磨をすすめるアンデパンダン展ならではの取り組みにご協力ください。

アンデパンダンの日

- ◆ 入場無料の日
- ◆ イイネマークを体験
- ◆ パフォーマンスあります
- ◆ アンデパンダン展って？楽しみながら学ぶ日
- ◆ アンデパンダンを語る座談会もあります（当日受付に表示）

3/30  
(日)

出品者のつどい

今年の出品者のつどいはお茶とお菓子で行います。出品者同士が親しく会話して交流できるような企画です。気軽にご参加下さい。

美術館講堂にて

3/22(土)

3:00-  
参加費  
500 円

アートフォーラム 講演会 3月23日(日)1:00開場

# 「君の星はかがやいているか」



## 伊藤 千尋 氏

<プロフィール>

伊藤千尋（いとう・ちひろ） ジャーナリスト（朝日新聞記者）

1949年、山口県生まれ。大学時代の71年にキューバで砂糖キビ刈り国際ボランティアに参加。73年、東大「ジプシー」調査探検隊長として東欧を旅する。74年、朝日新聞社に入社。外報部などを経て、サンパウロ支局長、バルセロナ支局長を歴任。2001年にはロサンゼルス支局長として、9・11後のアメリカ社会を精力的に取材。これまで世界70カ国を現地取材し、そこに生きる人びとの姿を伝えてきた。現在、朝日新聞「be」編集部所属。

また、「憲法と地球の恵みを活かそう-原発も基地もない世界を」「活憲の時代-憲法を活かして平和を創る」「変革の時代-社会を変えるのは私たち」、中学・高校では「広い世界に自分を拓く」などをテーマに、年間100カ所を超えて講演。憲法を活かす＝「活憲（かっけん）」を熱く呼びかけ、世界各地を現地取材してきた体験からの話が新鮮な感動をよんでいます。

主な著書に、『地球を活かす 市民が創る自然エネルギー』『活憲の時代-コスタリカから9条へ』『変革の時代-理想は実現できる』『君の星は輝いているか』（いずれもシネ・フロント社）、『辺境を旅ゆけば日本が見えた』『一人の声の世界を変えた!』（新日本出版社）、『新版 観光コースでないベトナム』（高文研）、『世界一周 元気な市民力』（大月書店）、『反米大陸』（集英社新書）、『太陽の汗、月の涙』（すずさわ書店）など多数。

### 伊藤 千尋氏「活憲の時代」より

私たちの日本は今、戦後で最も危うい緊急事態を迎えている。人類史上で初めて平和な国づくりを宣言し、実際に戦後日本の繁栄をもたらした平和憲法が、消されるかもしれない。ものごとを野獣のように暴力で解決しようとする時代錯誤の政治家たちが、人類の理想が込められた憲法を踏みにじろうとしている。

あの暗黒の戦前の社会に戻りかねない今、私たちは手をこまねいていていいのか。いや、そうはしたくない、何かをしなくてはならない、と考える人は多い。

平和憲法の根幹である9条に賛成する人々は、なお有権者の多数を占める。だが、政治が国民の意向とかけ離れた状態で急速に変化するなか、どうしたらこの動きを食い止められるかがわからず、ただただあつけにとられているといった状況だ。だが、黙っているだけでは世の中はかわらない。

では今、なにをすればいいのか。・・・